

# 会計報告

21年度～22年度上半期会計報告 平成21年4月～平成22年9月まで

収入	金額	支出	金額
繰越金	8,032,866	総会及び思い出を語る会	955,873
〈内訳〉		記念誌	4,014,570
本部	7,720,593	ホームページ開設料	315,000
支部	312,273	ホームページ使用料	49,980
		会議費	71,167
利息	1,571	通信費	75,098
		交通費	192,210
		雑費	32,431
(イ) 計	8,034,437	(ロ) 計	5,706,329
収支差引次期繰越金 (イ) - (ロ) = 2,328,108			

監査報告 監査の結果、適正に執行されていた事を認めます。  
 会計監査 福士 牧子 氏  
 佐々木 洋子 氏

※尚、この繰越金額の中から、「会報すみれ25号」の代金として約7～80万円の支出とホームページの更新料金が年間7～8万円の支出、それに事務費及び雑費などがかかかっていく事になります。以後の会計決算報告はホームページで公開していく事になります。

## 同窓会ホームページについて

今後の同窓会活動として同窓生の皆さんに思い出のページをいつでも開く事ができるようにとホームページを開設する事になりました。

同窓会の歴史を在学中の思い出の一コマをぜひ開いてみて下さい。資格証明書発行のお知らせもご覧になれます。

★ホームページアドレス  
<http://buntan-dousoukai.jp>  
 ★ユーザー sumire2009  
 ★パスワード buntan40

個人情報は極力配慮致しましたが、至らない所もあるかも知れませんが、何とぞご理解を頂きたいと思っております。(個人情報と思われる部分につきましては、同窓生のみが開くことが出来るように「パスワード」の入力で中身を開くようにし、配慮を致しました)

また、更新は、年に二回ほどを目安にしていきたいと思います。どんな感じでも継続できるのかはやってみなければ「文短同窓生の最後の砦」として活用していただければと思っております。

「文短を元気にする会」として、長年頑張ってきたメンバーがそのまま「すみれ室蘭」の役員として継続して頑張ってくれることで新たな第一歩を踏み出しています。

また、同窓会に代わって各期での同窓会などで親交を深めていって頂ければ、我々もうれしいです。そして、その様子などをお知らせいただければ、ホームページにアップして、多くの会員に現在の様子などをお知らせする手段として活用していければうれしいです。

現在、母校が看護学校となり、今年四月から開校しています。校舎の中の一室を「短大の記念室」として頂き、それを「同窓会室」として使用することを許可して頂きました。同窓生なら、いつでも使用することが出来ますので、有意義に使用して頂ければ幸いです。使用に際しましては、本紙の別コーナーにてお知らせして頂ければと思います。

これからは、ホームページでお会い致しましょう!!  
 そして長い間会報「すみれ」を心待ちにしてくれた皆様、本当にありがとうございました。

昨年三月末日をもってわが母校が閉校して、早一年半が過ぎましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか?そして、昨年の四月十一日に、短大と同窓会の共同開催ということに「思い出を語る会」を開催し、多くの同窓生や教職員の方々、それに来賓の方々の出席を頂きまして、盛会のうちにも幕を下ろした事がつい昨日の事のようにも思われ、また「すみれ」の発行も、複雑な気持ちです。日常生活においては、ほとんど触れることがないと思われ「同窓会」ですが、私たちが大好きだったあの「白亜の校舎」を看護学校に変える工事現場を見ると、なぜか寂しさがこみ上げて来るのは私だけではないで



文化女子大学室蘭短期大学同窓会  
 「すみれ室蘭」会長 下澤 和枝

「新たな旅立ち」



第25号  
 発行 平成22年10月30日  
 発行所 文化女子大学室蘭短期大学同窓会「すみれ室蘭」  
 室蘭市高砂町3丁目11-50  
 印刷所 株式会社 アイワード

# 閉校にあたり「思い出を語る会」開催

昨年4月11日に室蘭短大と同窓会の共催で「思い出を語る会」が開催されました。学校側は、これまでお世話になった方々や、室蘭市関係の方々、旧教職員などを招き、また同窓会は最後の同窓会をと、多くの同窓生の参加を呼びかけ、300名以上の方々の出席で、盛大に行われました。

会場は室蘭サンルートを貸し切り、椅子席の用意が出来ない程で、立食となりました。懐かしさと寂しさが交錯した中、和やかな雰囲気の中で繰り広げられました。

学長先生の、想いのいっぱい詰まったご挨拶また来賓の方々の閉校を惜むお言葉、皆それぞれの思いや優しさの詰まった挨拶に会場も感無量の様子でした。

懐かしい先生方に何十年ぶりに会えたり、また懐かしい友との再会に涙している光景もあちこちで見られました。アトラクションでは19期の豊岡まりさんと、30期の進藤 愛さんの歌のステージで盛り上がり、彼女たちそれぞれの、プロでの活躍の一端に触れることが出来ました。当日は室蘭のコミュニティFM「FMビュー」の中継が丸ごとラジオで放送され、会場に来られなかった会員の皆様にも聞いて頂けたのではと思います。遠く離れた栃木県と東京の同窓生の生中継の電話などもあり、会場にいた私達はその放送を聞いていないのですが、多くの市民の方や同窓生からも「聞きましたよ」とお声をかけて頂きました。ここでお詫びですが、この時の様子のCDを販売する予定で注文を頂きましたが、技術的にうまくいかなくて、何らかの修正にトライしてみた様ですが、制作する事が出来ませんでした。とても残念ですが…申し訳ありませんでした。ご了承下さい。

39期、最後の自治会会長の伏見 唯さんの「誓いの言葉」がありました。母校がなくなっても私たちは頑張っていきますと力強い決意に感動させられました。

懐かしい写真を画面いっぱいに出したスライドショーを見ながら、若菜先生のピアノに合わせて歌った校歌も涙でいっぱいみんなでした。こうして2時間以上の時はあっという間に過ぎてしまいました。“ア～これで本当にお別れなのだ”とそれぞれが悟った瞬間でした。みんなの心は今本当に一つになっていると感じた瞬間でもありました。40年の歳月にありがとうとみんなが心で叫んでいたことでしょう。こうして、盛会のうちに40年の歴史に幕を下ろし、「思い出を語る会」を無事終了致しました。

この日はくしくも理事長の81歳の誕生日でして、二次会でのサプライズで大きなバースデーケーキのキャンドルを一気に吹き消す元気な理事長の写真です。



## 思い出を語る会次第

- 1 開会の言葉
- 2 学長挨拶 大沼 淳
- 3 同窓会会長挨拶 下澤 和枝
- 4 来賓挨拶 新宮正志室蘭市長
- 5 感謝状、記念品贈呈
- 6 乾杯 青柳 宏 (前主事)
- 7 歓談
- 8 アトラクション  
 (19期生 豊岡まりジャズライブ)  
 (30期生 進藤 愛)
- 9 39期生挨拶「閉校を胸に」  
 伏見 唯 (最後の自治会長)
- 10 校歌斉唱  
 ピアノ伴奏 若菜 直美先生
- 11 閉会のことば





# 文化女子大学室蘭短期大学 記念室について

平成22年 3 月20日

平成21年9月1日に室蘭市と学校法人文化学園との間で締結し、文化女子大学室蘭短期大学（以下「文短同窓会室」という。）として、市立室蘭看護専門学院校舎1階の1室（旧文化女子大学室蘭短期大学応接室）を無償貸付されました。

文化女子大学室蘭短期大学は閉校致しましたが建物は市立室蘭看護専門学院として新しく生まれ変わりました。この室蘭の地に女性が社会進出出来るための教育の場としての志は受け継がれたのではないのでしょうか。

その一角に、文短同窓会室として残された大沼淳理事長の想いを大切に維持して参りたいと思います。

### 1 使用目的

- 文化女子大学室蘭短期大学記念や同窓会に関わる物品の保管場所とする。
- 同窓会役員を中心にホームページ更新や打ち合わせ等の活動場所とする。
- すべての同窓会会員が使用出来る場所とする。

### 2 使用方法

- 使用可能者は文化女子大学室蘭短期大学同窓会会員であること。
- 物品の販売や勧誘は禁止、アルコール禁止。
- 事前に同窓会会長に連絡し、使用許可をもらってから使えます。（鍵が必要です）  
※下澤会長連絡先 TEL・FAX共 0143-24-3129
- その他詳細は使用連絡時に、お知らせ致します。

## 〈教務課より 証明書発行についてのお願い〉

短大閉校にともない、卒業生の皆さんの証明書（就職活動等に使用する卒業証明書、成績証明書等）の発行は、平成21年1月より東京の文化女子大学教務課に引き継がれました。

証明書が必要になられた際は、以下にお問い合わせください。

尚、証明書発行手数料や発行手順などが室蘭とは異なる場合がありますが、どうぞご了承くださいませよう、よろしく願いいたします。

### 〈申請方法〉※間違いを防ぐ為、お電話での受け付けはできません

- 氏名（卒業時と変更している場合は新姓も）
- 現住所・電話番号
- 卒業学科（保育科、服装科、服装学科、生活教養科、教養学科、コミュニティ総合学科）
- 卒業年
- 生年月日
- 証明書種類・枚数（保育・保育士資格取得証明書の発行は保育士登録の場合のみ行えます）

以上を明記し、**FAX (03-3370-6202)** をお送りください。（又は郵便）手数料等の支払いは、証明書に同封された送付状の通りにお支払い願います。

### 〈問い合わせ〉

文化女子大学 新都心キャンパス 教務課  
住所 〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1  
TEL 03-3299-2304

# 「すみれ室蘭」会則

## 第1章 総則

- 第1条 本会は「すみれ室蘭」と称す。
- 第2条 本会は本部を北海道室蘭市高砂町3丁目11番50号市立室蘭看護専門学院内に置く。
- 第3条 本会は会員相互の親和を図る。

## 第2章 事業

- 第4条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
  - ① 懇親会の開催
  - ② ホームページ立ち上げ、および更新
- 第5条 本会は文化女子大学室蘭短期大学卒業生をもって構成されるものとする。

## 第3章 役員

- 第6条 本会は次の役員を置く
  - 1 会長 1名 下澤 和枝(保1)
  - 2 副会長 2名 金久保章子(保10) 菅蒲 延子(保9)
  - 3 会計 2名 鈴木 文子(保9) 佐藤 悦子(保10)
  - 4 監査 2名 早坂優雅子(保10) 藍原 佳子(保12)
- 第7条 会長は会を代表して会務を総理する。副会長は会長を補佐し会長が事故ある時はその職務を代行する。  
会計は、資産を管理し、監査は会計を監査する。
- 第8条 会長は必要がある場合は随時、スタッフを召集することが出来る。
- 第9条 本会に事務局をおく。事務局は本会の事務を行う。  
事務局 事務局代表者（会長宅）

## 第4章 会計年度

- 第10条 本会の会計年度は4月1日から翌年3月31日とする。

附 則 本会会則は平成21年7月31日制定

## 「文短が育んでくれた宝物」

教養学科 服装デザインコース 34期生 佐藤 いずみ



私は教養学科服装デザインコースを卒業し、文化女子大学服装学部服装社会学科に編入をしました。

私の代の服装デザインコースは人数が一桁しかいなく、入学当初から文短祭恒例のファッションショーすら危ぶまれる程の少なさで、授業中も短大の講義と言うよりは正直、規模と雰囲気だけで言えばちょっとしたカルチャーセンターの講習の様でした。その様な中、編入後の文化女子大学での学生生活ではある意味ショックを受けた訳ですが、今にして思えばあの当時少人数で徹底的に基礎を教え込まれた事に大きな意義と重要性を感じずにはいられません。私は現在、ファッションに関わるいずれの職種・業種にも属さない仕事に就いています。その為、文短で得た知識や技術を職場で直接的に活用する場は全くないと言っても良い程です。洋裁を行うのは趣味の範疇を越えない限られた時間だけになってしまっているのが実情です。しかし、学んだ事は専門知識だけではないのです。何事にも基礎と根本があってこそ存在し、成立すると言う事を知らず知らず習得していた様に思います。社会に出る事でそれがいかに重要であり、また核となるかを思い知らされます。その部分を学ばせてくれたのは他でもない文短での授業であり、経験なのです。

少人数であったからこそ、妥協なく基礎を突き詰める事が出来たのは、私にとってとても貴重なものです。人数が少なかった為に出来なかった事は確かにあります。加えて、室蘭と言う土地柄、残念ながら色々なものが不足していると感じた事も多々ありした。しかし、それらを払拭する“何か”が文短には存在し、私を成長させてくれたのだと思っています。物質的な豊かさや情報量の多さだけではこの良さは計れない。私は今、それを身をもって実感しています。そして講師の先生方とのやり取り、クラスメートと一心不乱になってやり遂げた一つ一つが今の私を確かに形作っているのです。

## 「追伸」

水芭蕉

保育科1期 北村 啓子

私は、自分の人生がツイているのか、ツイていないのか時々判断なくなる。

大恋愛の末得た夫は、若い女に走り、可愛い息子は嫁にとられ、仕事が生きがいと思えば閉店し、爪に火をともし、老後にと貯めたわずかの株も投資信託も、世界同時不況のあおりで価値は三分の一。頼みは年金と思えば、七年間未納発覚！万幸です。

私ただいま就活中。ハローワーク初体験。担当者はトラ年生まれの私に、気の毒そうな顔で「そのうち」とか「あきらめないで」とか、しかし「パソコンは？」と鋭い目で聞く。アー私ケイタイのメールがやっとなの。

失業中、雲や山や鳥を眺めて暮らした。本や音楽にも囲まれた。こんな時間もあったのかと。それでも閑なので体力作りにと歩いた。ひたすらに歩いた。遠くまで買物にも行く。ただ重くなるのでビール缶だけを提げ帰る。お陰様で体脂肪も血圧も安定した。ただ持病の外反母趾が疼き始め、仕方ないので3Eの靴を二足買った。その靴を履いて甥の結婚式出席の為に上京した。皇居外苑も歩いた。楽しかったが、お気に入りのピアスとルビーの指輪を紛失してきた。

就活中に三回面接を受けた。履歴書に「特技」を書く欄がある。三回転職ジャンプも出来ないし、帽子から鳩も出せないし、スワヒリ語も話せないし。はたと手が止まる。他人様に誇れるコトは何一つない。愕然とする。この年令になるまで私は何をして来たのだろうか。これが私だと何を言えば良いのだろうか。

私の母は口癖のように「中位がいい、凡庸でいい」と言っていた。今の私がそうなのか、まだその域に達していないのか。論語に「六十而耳順」とある。未だ修養は進んでいないが、とりあえず人の話はよく聞こう。周りの人から学ぼう。

「特技」の欄に「前向きである。老若男女誰とでも親しくなれる。」と書いた。

## 「再追伸」

今 新しい職場で、新しい仲間たちと、新しい仕事を、新しい人生の結果は、まだ自分出さず、今のところまあまあかな。

## 9期からのお知らせ

平成15年に制作しました「思い出のしおり」がまだ20組、在庫があります。お手持ちでない方はご連絡下さい。

9期 菅蒲 延子  
TEL 0143-85-1208

## 編集後記

役員の方々、長い間本当にご苦労様。やっと終わったと思ったらまたホームページと関わる事になって。この際もう諦めて下さい。年に二回の更新をどのようにやっていくのか、まだ見えていませんが、今までも何とかやってきましたからなんとかなるでしょう！とにかかくひとまず本当にご苦労様でした。